



Studio 7 Feature Pack 3



実行性能の観察(Enterprise版のみ) *

シミュレーションのスピードを上げましょう。

さあ、始めてみましょう。

- 性能の観察機能によって、シミュレーションモデルのどの部分に多くの時間がかかっているかを調べることができます。その時間とはStudio7の計算時間とそれが加算されるシミュレーションの全時間のことです。
- 全ての方程式のリストを眺め、シミュレーション期間にそれぞれの変数においてどの程度の時間がかかっているかを見ます。最も時間がかかっているリストを選別し、その後、シミュレーションの実行をいっそう早めるように方程式を改善することができます。



アクション・ボタン



アクション・ボタンでユーザーインターフェースを引き立てる

- エンドユーザーに実行ボタンを使って、シミュレーションを走らせてもらいます。可能なアクションは、実行、中断、一刻み時間ずつの実行、リセットです。インフォメーションやヘルプのボタンと同じように、あらかじめ定義されたこれらの命令に対するボタンがStudio7では準備されています。
- アクション・ボタンを使えば、メッセージボックスの開封、ハイパーリンクの実行、定数の設定、他の変数へのコピー、命令の実行ができます。
- あらかじめ準備してあるボタンがありますが、それだけでなく、ボタンのプロパティページを開くことで独自のボタンを設計できます。ボタンの形、フォント、線、シンボルの色、文字の配置など、ボタンのプロパティを決めることができます。
イマジネーションをインターフェースの設計に生かしてください。

シミュレーション

実行後に次の実行に向けてのパーマネント変数の調整

- この新しい改善を使うことで、シミュレーションをまずリセットすることなしに、パーマネントと設定したどんな入力情報も変更できます。
これは、次に実行するシナリオを計画する時、リセットしていないので前の結果が表示されたままになっていますから、前の結果を観察しながら、次の条件を設定できることを意味しています。
- パーマネント変数は、一つのシミュレーションの実行から次のシミュレーションまで、ユーザーの入力情報を保っておく入力変数です。



Required rate of
return

モデリング

機能を示す標識

- これは全てのStudio7のモデラーに対するおまけです。
機能標識は方程式の中身を表示しています。
ダイアグラムを見ただけで、モデラーにはこの標識で付加的な情報が得られます。
そして、この標識により、以前に作ったモデルを再び見たときの理解し易さが向上すると共に、モデルを開発するときの仕事が楽になります。
- 標識の種類は以下の通りです。
時刻関数、内挿、確率関数、状態関数(遅れ関数など)、
スクリプト記述(VBFUNCTIONで記述)、コントロール関数、
外部データ関数、状態の初期化、変数接続の標識



Weather variations